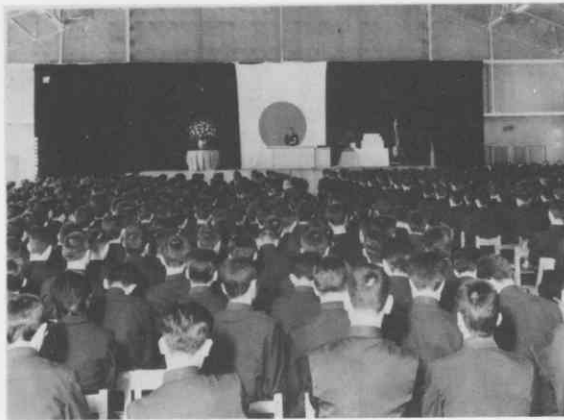


第六章 校舎改築の槌音

創立四十周年 昭和四十年は本校創立四十周年にあたり、九月二十一日年挙行 には学校祭、九月二十二日には四十周年記念式が挙行さ



創立四十周年記念式典

れ、続いて記念音楽会「ソプラノ中村美佐子、バイオリン磯恒男、チェロ青木十良、フルート柴田久、ピアノ柴田花枝の五名」、翌二十三日にかけて演劇、合唱、演奏会、展示会、座談討論会などが盛大に行われた。記念事業としては、五月一日、学校玄関並びに生徒昇降口までの通勤学路のアスファルト工事（巾六m、長さ二百m、総工費六十七万六千八百円）が完成し、記念樹（桜苗木など百本）の植樹、裏門（総工費十二万八千七百円）建設等であった。これら記念事業及び行事に関する総経費は百六十万円（後援会九十万円、PTA四十万円、同窓会三十万円の負担）であり、当時としては、かなり巨額の事業であった。

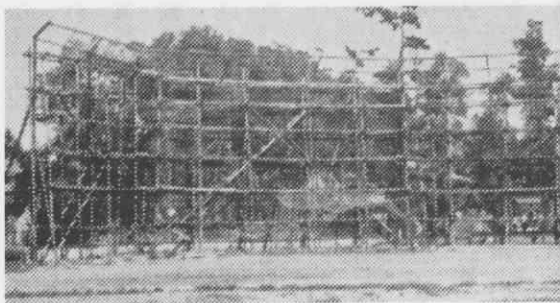
職員公舎建 昭和四十年年度県予算の中で、県立高校職員公舎建築三十
築問題 戸分とのことで、本校にも割当ての可能性が十分にあり、

市内西大瀬に土地百六十三坪を確保。年度内着工の準備を進めた。その結果、十二月二十四日に二棟、翌昭和四十一年七月三十一日に一棟、計三棟が完成した。その後、昭和四十二年八月三十日、校長公舎建築用地として市内松美町に土地二百四十一・九十㎡を購入、翌四十三年十一月二十日、校長公舎が完成。更に四十五年十月三十日、旧校長公舎跡地（栄町）に職員公舎二棟、四十六年十月二十五日一棟が完成し、現在に至っている。

前年に開催された「東京オリンピック記録映画」が四月二十一日、能代第一劇場で上映され、団体鑑賞となった。当時、さまざまの批評があつた映画だけに興味深いものがあり、ほとんどの生徒が鑑賞し、思い思いの感想を述べている。

この他にも四十一年五月九日、「生」の演奏を生徒に聞かせたいという趣旨で音楽会を開催している。アコーディオン岡田博、ピアノ宮城友子、ギター坂井正士、ベース尚雅利から成るアンサンブルミューゼットとソプラノの中村邦子の五名で、すばらしい演奏や歌唱に生徒たちは魅了された。

面談室・生 昭和四十一年度は施設面での拡張・充実の年となった。徒会室完成 一つは、夏休み中に当時の放送室向いに総工費三十六万円（PTAの寄付）かけて広さ二十九・七㎡の面談室が完成した。これは、個人面接や進路相談に活用する場で、特に就職関係の人たち



野球グラウンドにバックネット完成

ほか、生徒指導の為に毎日のように盛んに利用され、好評であった。

同じく夏休み中、体操場脇に、総工費二十四万円（PTAの寄付）で広さ十九・八㎡の生徒会室が建てられた。それまでは、物理室を借りなどの苦勞をして生徒会の仕事をしていただけに、『大いに活用したい。』と生徒会長が話したように福音であった。

第三に、野球グラウンドに五十六万三千円の費用でバックネットが完成。高さ十一m、幅十六m、それに両側に十一mの“そで”のついた巨大なもの。従来のは、小さく、老朽化して、付近の家屋や下校生徒にボールが飛びこむという状況に氣遣いながらの練習であったので、練習に専念出来て、一層烈しい練習姿となった。

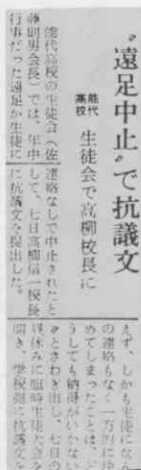
第四に、理科関係の教室の充實を図る目的で建設中だったプレハブ教室が物理室南側の空地（六〇坪）に十一月二十五日完成。四十二年四月より生物室、地学室として利用されることになった。二百五十万円の費用を投じたもので、実習を増やすことが出来、学力向上が期待された。最後に、十月四日着工したグラウンド北側の境界壁が十月二十五日に完成。総工費五十四万九千円、その内訳は、県から四十八万四千円、PT

Aから六万五千円の支出であった。この時期、壁を設けたのは、付近の民家の敷地との境界がはっきりしないこと、付近住民のゴミ捨て場になりつつあることに対処するものであった。

十里強歩の 九月三十日から十月一日にかけて行われた恒例の十里強コース変更 歩は、昭和四十一年、コースが変更になっている。距離は三十八kmと短縮され、学校——東能代——富根——常盤——向能代——学校間で、同じ地区のPTAの方々に迷惑をかけないための配慮であり、短縮された分、記録の大幅な向上をみた。

遠足中止に 十月七日、生徒会は年中行事だった遠足が生徒に連絡な抗議文 しで中止されたとして、高柳校長に抗議文を提出した。

血氣盛んな生徒像が目につかぶ。学校側の中止理由は、この四十一年は、祝祭日が二日増えたため、授業時間を確保したいということであった。これに対し、生徒側は、遠足も勉強の一つ、しかも生徒に連絡な



北羽新報の「遠足中止」に抗議を伝える記事

しということとで臨時生徒大会を開き、前述のこととなったらしい。学校側では、再度職員会議を開き、従来通り遠足実施を決定した。生徒側の実力行使がまさったと言えよう。

高柳校長は、生徒の個別指導の徹底、環境整備のための学校づくり、学業とスポーツの両立など学校運営にあたっての功績により、文部省

の昭和四十一年度教育功労者として全国六十九人の一人として表彰された。

高校入試三 昭和四十二年度の高校入試から、従来の九教科に代わつて国語・数学・英語の三教科に絞り、調査書の学習記録も検査成績と同等に扱う方針となり、しかも国語には作文が加えられた。作文を採点科目に加えたのは、全国でも初めてのケースだった。いよいよ入試三教科時代の到来である。

しかし、初年度ということで、いざ採点、合否判定ということになると難しい面も出て来たようだ。こうした現場の声に対して、四月に入つて県教委は、再検討を迫られた。その結果、三教科入試は継続、ただし、調査書は検討の余地のあることを県教委は明らかにした。

体育後援会 昭和四十二年四月高柳校長が退任し、代わつて第十六代の発足 校長に高橋彌助校長が就任した。



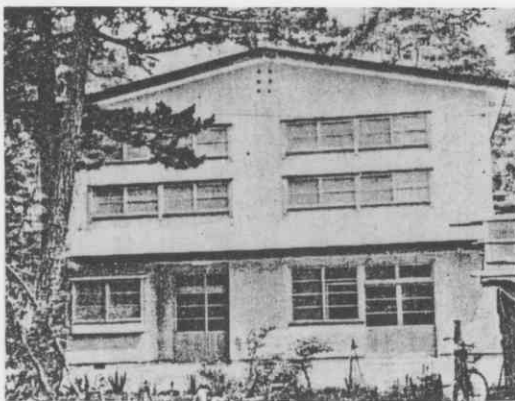
第16代 高橋校長

四十二年五月十六日のPTA総会で各運動部が活発にしかも立派な成果を挙げ得る目的で体育後援会の設立が満場一致で決定された。その目的とするところをもう少し詳しく見ると、『本校生徒の体育向上振興を図り、学校の運営施設については積極的に協力する。事業面では、県内外出場補助、合宿補助、役員・生徒引率補助、クラブ研修補助、県高体連の負担金補助、各クラブの補助等である。』特に発足

年の最大事業は合宿所建設の実現であつた。なお、初代体育後援会長には織田信治が選任された。

ところで昭和四十二年度より県立高校の夏・冬・春季休業が七日間短縮されて、年間六十四日間と定められた。改正は、夏季休業七月二十二日～八月二十日、冬季休業十二月二十二日～一月十日、春季休業三月二十二日～四月四日である。この改正は、各種の行事のため年間授業時数が法律の定めるところより三十五時間少ないことへの措置であつた。

合宿所完成 四十二年六月に着工した合宿所が柔剣道場横に、七月二十日完成。木造モルタル二階建て、面積約二百五十七㎡、総工費約六百万円。一階が食堂、調理室、管理室、浴場、便所。二階が二段ベッド



待望の合宿所完成

ド備えつけの寝室で六十人収容できるデラックスなもので、体育部、文化部の合宿に以後利用された。費用は米を持参して、一日四百円。一階の食堂は、平常、昼休み・放課後開かれて、次第に全校生徒に大いに利用されていった。

八月三日から十日間にわたり、福井県を中心に北陸

各県で開催されたインターハイに本校からは、体操部とバレーボール部が出場。体操部は四十一年の雪辱を目標に奮闘したが、惜しくも優勝を逃し、団体二位となった。一方バレー部は、持ち前の攻撃力で三回戦まで進出健闘したが敗れた。なお、両部とも国体（埼玉）に出場したが、体操部は六位、バレー部は準決勝で鹿児島商高に惜敗した。十里強歩雨 四十二年、十六回を数える恒例の十里強歩大会は九月二のため中止 十一日から二十二日にかけて行われる予定であったが、折りからの雨と強風で中止となった。これ以後、交通事情の悪化ということで、四十三年は白神山登山、四十四年は松山の植林地への遠足と三年間にわたり中断された。しかし、『苦しくも思い出多い十里強歩、各関門での暖かいもてなし、先生にハッパをかけられながら、眠い目をこすり歩いた道のり、ゴールインした時の喜び』等々、十里強歩を再開しようとする声が増しに高まって四十五年の再開となったのである。

例年冬になると、生徒たちは弁当が冷たくて御飯がのどを通りにくくなり、暖飯器の設置を望む声が高まっていた。ようやく、四十三年一月からストーブの上に置く暖飯器（学校設備費より四万二千円支出）が取り付けられた。ところがヤカンの置くスペースがなくなり、お湯をいただけないという困った問題も出たりした。

その他体操場に従来の裸電球に代わり蛍光灯六基（学校設備費より四万九千円）が設置され、授業、運動部の練習に支障がなくなった。募集定員減 四十年代半ば、中学卒業生の減少に伴い、県教委は公立

高校の募集人員を四十四年度より減らすこととし、本校の定員も一クラス五〇人を四十八人として十四人減の三百三十六人となった。

四十四年六月十九日、国語科の要望により、本校体育館にて歌舞伎教室が開催された。本校では初の試みで、「つくし会」による『冥途の飛脚、梅川忠兵衛、新口村親子対面』、最後に十八番『勸進帳』が上演された。迫力ある音調、全身を使つての個々の妙技に二時間四十分、普段見れないこともあつて生徒たちは引き付けられたのであった。

昭和四十五年、高橋彌助校長の退職により、和田勝太郎能代北高校長が第十七代校長に就任した。



第17代 和田校長

校長は、時間割の改定、全校集会の発足、また、放課後は剣道部へ指導しに行くなど当初から精力的に活動した。昭和四十七年には、学制百周年記念で教育功労者として文部大臣から表彰を受けた。校舍改築期 昭和四十四年から五成同盟会 年にかけて、PTA などから新校舎建設の話が出てきた。

当時の校舎は、資材不足の昭和二十三年に建設されたもので、大分、老朽化していた。中心校舎は最高収容能力が五百人までであるが、増築に増築を重ねてやっと生徒数、千十五人を収容していたのであつて狭すぎる状況であつた。加えてグラウンドも野球場と陸上競技場が一緒になつていて十分な活動が出来ずにいた。能代北高は昭和四十三年、

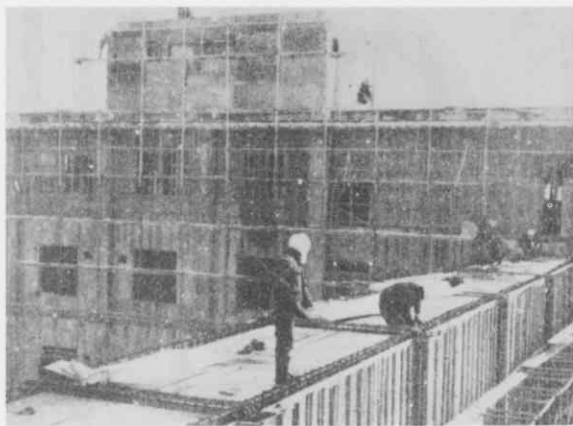
能代工業高は昭和四十六年に近代的な四階建ての鉄筋コンクリートによる新校舎が完成し、市内の高校では、木造校舎、しかもすき間風が吹き込み、吹雪のちらつく校舎として名をとどめていたのは本校のみとなった。それゆえ、PTA・同窓会においても新校舎建設の話が強く出てきたのである。その上、校地（一万二千坪）は狭く、能日以来の樽子山に強い愛着を持つのであるが移転もやむを得まいということで、一層校舎改築問題は高まった。

ようやくにして、昭和四十五年十一月五日、能代高等学校校舎改築期成同盟会が設立された。会長には、当時の塚本義夫PTA会長が就任、副会長には、吉武栄一同窓会長、能登直助、平川次夫らが選出され、昭和四十七年着工をめざして討議がなされた。

四十六年度期成同盟会費は一カ月一人百円、四十七年度の二、三年生は同じく百円であるが、一年生は校舎改築資金ということで千円の徴収になっている。四十九年には千五百円となった。

ところで移転候補地としては、一、海岸寄りの松林地帯（国有地の払下げ）、二、米代川沿いの営林署の工場跡地、三、中川原、四、向能代の農業高校方面や落合、五、東能代方面などで、最終的には五の案となり、バイパスも出来るし、勉強するにしても静かな環境で最適であるというところから、高埒地区の田園地帯の真ん中に決定した。二万七千坪に及ぶ広大な土地買収にあたっては、県や市、同窓生、PTA、あるいは藤田正夫紳士地改良区理事長らの尽力により、滞りなく進んだのである。

第一期工事は、昭和四十七年十一月から始められ、普通教室一棟が、四十八年度は第二期工事として、特別教室、管理棟、四十九年度は第三期工事として、体育館、セミナーハウス、陸上競技場が完成。更に同年度、通学バス回転用地をも取得。主要部分の工事は、中田建設が



工事中の新校舎

担当、約五億五千万円をかけた全館暖房三階建ての全県一を誇る近代的校舎が誕生した。

プラスバン 四十五年度
ド新編成 のPTA総
会で楽器不足に悩むブラ
スバンド部に総額約二百
七十万円の助成をするこ
とを承認した。その結果、
新しい楽器が加わって、
四十人台の編成が出来、

少ない方ではあるがAクラスに昇格も出来るようになったのである。助成費の方は、三カ年計画で、一人一カ月百円を徴収する方法にした。

昨今は計画されていないが、昭和四十六年十月四日、第十二回能高祭記念講演が生徒会主催で本校体育館において開かれている。講師は東洋大学・流通経済大学教授渡辺博史（本荘市出身）で「世界の若ものたち」——ユダヤの少年のくらし——という題で行われた。その講

演内容は『激動の七十年代である。その中で明日をになうべき若ものたちは、なにを考え、なにを求め、なにを為しているのであらうか。アフリカで語ったあの若ものとの話、ヨーロッパのなかで行くすえを悩んでいたあの若もの、明日の日本の豊かな扉を開くために、若ものの意義ある歩みかたを考えてみたい。』と時にはユーモアを交えての講演で、生徒も関心を示し、熱心に聞き入った。

また、翌十月五日、本校体育館で文化講演会が「秋田魁」主催で、詩人・文芸評論家伊藤信吉によって行われた。この講演は、「詩と人生」という題で、高村光太郎の作品や人生観を例にとって話を進められたのであった。

校時内クラブ 昭和四十八年度入学より適用となる「改訂指導要領」開始 に沿って、校時内クラブが昭和四十七年度より試験的に二、三年生で実施された。というのは、あるとすれば、問題点を探り、対応策を練り、かつ事前の準備をすることであった。

クラブ数三十、一クラブの人数、平均三十人前後としたものの、運動クラブは一つのクラブの使用範囲が広いため、種目制限を免れないこと、雨天時・冬期間の施設利用の困難な点、文化クラブにおいても設備・顧問の問題など今日抱えているものと同様なことを指摘している。

ちなみに実施初年度のクラブ所属状況は以下の通りである。



校時内クラブ「生花」の活動風景
(校友時報 第131号より)

4月27日現在
校時内クラブ人数調べ
(HR調査による)

クラブ名	2年	3年	計
バレーボール	27	24	51
バスケットボール	19	11	30
庭球	18	10	28
卓球	15	10	25
軟式野球	23	12	35
ソフトボール	8	18	26
サッカークロム	35	29	64
バドミントン	12	13	25
バレーボール	7	3	10
柔剣道	16	15	31
剣道	14	23	37
上 部	4	4	8
陸上競技	10	15	25
美術	11	15	26
書道	1	4	5
花道	1	6	7
茶道	10	5	15
茶室	11	6	17
将棋	20	9	29
将棋	9	2	11
生物	3	3	6
地理	0	4	4
物理	1	12	13
無線電	10	0	10
硬筆	10	4	14
読書	21	50	71
演劇	5	3	8
英会話	8	5	13
文芸会	3	4	7
芸術	0	0	0

実施初年度の所属状況
(校友時報 第131号より)